
大食いファイター準

メロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大食いファイター準

【Nコード】

N9302H

【作者名】

メロ

【あらすじ】

俺は大食いファイター準だ！嘘じゃないぜ！絶対に準だ！準と書いて殺人大食いファイターと読め！漢字字典にも載せる！あと、ジャンプにも乗せる！一番最初のページに乗せる！いや、目次に書いておけ！いろいろな物を食べるぜ！偉いだろ？金を出せ！金がほしいんだ！大食いをみんなに見せて夢を与えるぜ！元気が無い人は集まって来い！バラバラにしてやるぜ！

第一話大食いファイター

俺は大食いファイター準だ！

嘘じゃないぜ！

絶対に準だ！

準と書いて殺人大食いファイターと読め！

漢字字典にも載せる！

あと、ジャンプにも乗せる！

一番最初のページに乗せる！

いや、目次に書いておけ！

殺人大食いファイターだけど殺人はしないぜ！

むしろ生き返らせたりはする！

リサイクルもするぜ！

リサイクル商品を地獄の業火で焼き尽くせ！

大食いファイターはどんな料理だって平らげるファイターだぜ！

嫌いな物でも我慢して食べるぜ！

でもそんなことするとストレスが溜まるから、ストレス解消に壁を殴るぜ！

大食いファイターパンチはすごいパワー！

壁がヘコむぜ！

素人が大食いをしてはいけないぜ！

危険だ！

心霊スポットより危険だ！

素人が大食いをするとお腹を壊したり、即死する！

でも大食いファイターは、大食いをして即死しない！

なぜかって？

才能ですよ！

才能があるの！

大食いの！

神々に祝福されているんだ！

ただ人より多く食べれると言うだけで、威張り散らす！

実際には大食いなんて意味なんてないけど、威張り散らすぜ！

それが俺だ！

ただ、威張り散らしたい！

それが俺！

大食いファイター準だ！

今日、俺は町に行って大食いをするんだぜ！

裸では行かないぜ！

捕まるからな！

服は着ている、お洒落なやつだ！

俺のお洒落のセンスは飛びぬけていてパリジェンヌとかが俺を見ると、怯えてダムに飛び込む！

自分のセンスが怖いぜ！

お化け的な意味ではないぜ！

俺の行きつけの町は普通の町だ！

人口も普通にいる！

みんなが元気な素晴らしい町です！

でも、万引きする人もいるぜ！

「こりゃ！大食いの前にトレーニングをしていけ」

こんなことを言うのは俺の大食いの師匠だ！

俺に大食いの素晴らしいさを適当に教えてくれたジジイ！

今は手術したのでババアだ！

「トレーニング？だとこのクソツタレ！腕をへし折ってやろうか！」

師匠を口汚く罵る！

あと、腕を折った！

俺の得意技、アームロックが炸裂したのだ！

「ぎゃー」

「師匠！軽い冗談だよ」

アームロックは危険な技なので冗談や遊びでやってはいけない！

警察に鉄の棒で叩かれる！

「それより、わしが石を投げる！それを口でキャッチして食べるのじゃ」

地獄のようなトレーニング！

でも石は意外とうまい！

海老みたいな味がするんだぜ！

「きな！」

俺は師匠の顔を使って、師匠のクレームサイトを立ち上げた！

世界中に師匠のおもらしのことを教えてやるんだ！

「そりゃー！」

師匠はシャベルカーを自在に操り、準に石を投げつける！！！！

師匠はシャベルカーを運転できる、かつてはその技でATMを盗んだ事もある！

しかし捕まった！

罪は償った！

でも、師匠はまたやるね！

クズはどこまで行ってもクズなんだから！

「ふおおおおおおお！」

「まるで！石の雨みたいだぜ！けどなあ！俺は食い続けるぜ！何トンだって！」

「さすが準！じゃがこれはどうかな？大食いするものは冷たい物とはかぎらんぞい」

師匠はシヨベルカーで真っ赤に燃えた石炭をすくいあげると、準に浴びせた！

殺人だ！

これはまるで殺人だ！

「これは・・・熱々じゃねえか！こうすれば！」

準は石炭が口に入る瞬間に唾を吐きかける！

「おみごと！唾で石炭の温度をさげおった！」
みごとだった！

「さあ師匠！町に行つて大食いをしてきていいだろう？」

大食いファイター準は師匠を突き飛ばした！

そして殴った！

師匠は親にも殴られたことのないいい人！

そんないい人を殴つてしまった！

でも殴られた師匠よりも殴った準の方が痛かった！

どこが？

心だよ！

準の心が痛かった！

準の人を人とも思わない心！

でも、耐えた！

強い心を持った大食いファイター準！

準が師匠を超えた瞬間です！

人は人乗り越えて大きくなっていく！

これからは師匠を虫けらのように扱うと決めた準！

師匠は吹っ飛ばされて盲腸が破裂した！

そしたら師匠の口から大量の接着剤が飛び出た！！！！

「師匠はこんな物を食べていたのか・・・」

師匠は接着剤を食べる！！！！

醤油をひとたらし！

通はこうするんだ！

だから師匠の体はベトベトしていて、敵をくっつけてしまふ能力がある！

捕まった敵は、師匠の体を手当たり次第に殴りまくる！

そして師匠は動かなくなる！

諸刃の剣！

「すごい能力は手に入れたが将来への不安はあるよ」

師匠は少し悲しそうに空を見上げた！

師匠は将来より今を心配したほうがいい！

師匠の瞳に輝く一筋の汚水が流れ落ちた！

汚らしい！

そして地面に落ちた汚水は土壌を汚染した！

この土地が綺麗になるには何十年もかかることだろう！

自然を破壊することを簡単だが、守ることは難しい！

「師匠！落ち込まないで！落ち込んだ師匠なんて見たくないよ！そもそも、師匠を見たくないよ！師匠の顔は汚いよ！」

準は師匠の顔を石鹸で洗った！

師匠の顔がボロボロとはがれて中から綺麗な顔が表れた！

今までの汚い顔は偽者だったのだ！

「俺はサントナだよ」

サントナだった！

汚い師匠は死んだ！

これからは汚いサントナだ！

「俺は準！大食いファイター準！大食い界に嵐を巻き起こす男だ」

嵐を巻き起こし、すべてを壊してやるのが準！

気象庁もお漏らしする！

「嵐を巻き起こす！？おお、怖い！嵐は怖い！災害はすごい破壊力をもたらすアル」

サントナはブルブル震えている！

その顔は汚かった！

「サントナ、町にいいこうぜ！大食いをするんだ！町を食い尽くしてやろうぜ！」

準の腹は減ったのだ！

腹の減った準はどんな兵器よりも恐ろしいのだ！

国連でも腹の減った準は規制すべきとの、意見が出ている！

「ははは、それは面白い！大食い、町を火の海に変えてやる」

サントナは自分の服に火をつけた！

一足早い、火の海を体験したのだ！

二人は町にやってきた！

あの二人が！

「早速、大食いを始めようぜ」

サントナは涎を垂らした！

とたんに回りに臭いにおいがたちこめた！

サントナはみんなも納得するくさい涎をたらす！

滝みたい涎をたらす！

マイナスイオンが溢れかえってるぜ！

そのマイナスイオンが二人の力を上げていく！

マイナスイオンは科学的にみても体にいい！

マイナスイオンを体に浴び続けければ、健康が体の内部からにじみ出てくる！

健康になれば元気なので死ぬことはない！

生きる！

「そうだな。大食いをやってる店を探そう」

準は視野を広げた！

グローバルな視点で町を見る！

今の時代、グローバルな視点を持たなければ時代の荒波を乗りこなすことはできないのだ！

「ステーキが食いたいなあ」

サントナは肉が好き！

地球に住む人は大体肉が好き！

肉しか食べない人ばかり！

なぜだ？

肉を食べると力が湧いてくる！

勇気も湧いてくる！

勇気が毛穴から吹き出てくる！

ああああああ！！！！！！

怖いものなんてない！

肉を食べれば！

「おい！サントナ！ステーキって言ったのか？」

準はキレちまった！

ステーキなんて言ったらから！

準の怒りは地面を砕き、空を何かする！

アメリカの人が必ず恐れるという、準の怒りモード！

「え！？そうだけど・・・」

「おまえは料理の組み立てって物がまったくわかっていないな！ステーキはメインだろ！大食いとは言っても食事！ちゃんと食べる順番を組み立てて食べなければいけないんだ！食事はおいしく食べるものだ」

大食いと言ってもおいしく食べなければ、食材に失礼！

食べ物に無礼！

ただ、多く食べればよいという考え方は準は嫌いだね！

無礼者はかけ算ができなくて苦しむ！

くぎやあああああ！

「俺が間違っていたよ・・・大食いはただ食べ物を沢山食べればいいと思ってた」

サントナが間違っていた！

準はサントナの顔に唾を吐きかけた！

間違えた罰だ！

第二話 グルメマップ

「じゃあ、何から大食いを始めるんだよ」

サントナは頭を抱えた！！

抑えていないと、頭が取れてしまうからだ！

うまく首とくっ付いていない！

不良品だ！

サントナは大食いを何から始めるかわからない！

すごいバカ！

すぐに病院に連れて行かれるレベルのバカ！

大食いには基本がある！

何事も基本を抑えなければいけない！

基本ができずに、応用なんてできるわけがない！

できる人もいる！

それはすごい人！

褒めてください！

そしてその人の能力を伸ばしてあげてください！

伸びたらボコボコにして倒して、地獄に送ってやれ！

才能のある奴は気に入らない！

妬みが力になるんだ！

「まずはオードブルだぜ」

準は町を練り歩き、ブティクを見つけると屋根を引き剥がし、塩を

少しかけて食べた！！！！

ブティクの屋根がオードブル！！！！

大食いファイターは一味違う！

屋根だつて塩をかければ結構いける！

食わず嫌いな人がいると思うけど、そいつはバカ！

なんで食べてみないんだ！

未知の物が怖いのはわかる、でも踏み出す勇気が必要だ！

勇気が人類最強の武器なんだ！

でも無謀なことはするな！

それは勇気とは違う！

屋根は食べるな！

それは無謀だ！

「な・・・なんだって!？」

「ふふふふ！この屋根はこうも使えるんだぜ！」

準はブティクの屋根を体に巻きつける！！！！

大食いファイター準Z！！！！

防御力が上がった！

これなら地球が爆発しても骨折くらいですむ！

骨折と言っても普通の人なら即死レベル！

大食いファイターは丈夫だから骨折ですむニダ！

「お遊びはこれくらいにしておこう。大食いをしにいくぞ！最初はカレーだ！料理の組み立てなんて関係ない！そんな細かいことに拘る奴はバカだね」

料理の組み立てに拘るのはバカがすることだぜ！

柔軟な考え方をできない奴はバカ！

物事の本質は一方から見ただけではわかることはない！

様々な方向から考えてこそ見えるものがあるのだ！

もちろん見えないこともアル！

大体、見えない！

「カレー！うまそう」

カレーはうまい！

黄色とかいろんな色がありますね！

赤土みたいな色が食欲をそそる！

ザ・カラフル！

カレーは栄養がある！

栄養と言えばカレーですね！

栄養の王様がカレー！

「カレーの大食いで気をつけることがある。それはなんだと思う？」

カレーの大食いで気をつけることがあるんだ！

気をつけておかないと即死か、変死する！

近所の人もそう、言っていた！

だから信じて！

「ええ！カレーの大食いで気をつけること？」

サンタナはバカだからわからないだろう！

「いいか、カレーの大食いで気をつけることは・・・カレーは食べなければ減らないってことさ」

「カレーって食べないと減らないの！」

驚きの新事実！

世界市場が爆発！

株価があつちにいたりこつちにいたりする！

それを叩き潰す！

いいか、カレーは食べなきゃ減らない！

見ているだけではカレーは減らない！

むしろ増える！

カレーが湧き出てくる！

永久にだ！

カレーは永久機関だ！

走り出したら止まらないぜ！

宇宙の法則が相撲をとるぜ！

これはカレーに限らずどんな大食いにも言える。

「あ・・・あたりまえじゃないか」

「当たり前なことほど見落としがちなんだ」

見落とすと命を取り！！

簡単なことほど確認を怠るのだ！

そしてあとから後悔することになる！

後悔してもしてきたことは変わることはない！

みんなもどんどん後悔しよう！

「見落とさないよ！」

サントナはこんなことを言った！

注意力がない人間ほど、簡単にこんなことを言っただけのける！

「いや、お前はバカだから見落とす」

バカなサントナは大食いで、食べることを見落とす！

ぴしゃりと言っただけ！

そんな時、カレーのいい匂い！

カレーはいい匂いで、どんな遠方からでも匂ってくる！

まるで魔法だね！

「この匂いはカレーじゃないか？」

サントナの鼻はすごく敏感で、匂いを嗅ぐことができる！

生意気にそんな能力を持っているサントナ！

「サントナの鼻で店を探してくれ」

「よし！サントナ鼻レーダー！」

サントナの鼻はレーダーのようになる！

ハイテクな鼻！

投げて遊ぶこともできます！

ナサもサントナの鼻を狙っているぜ！

「そうはいくか！」

準の回し蹴りがサントナの鼻に叩き込まれた！！！！

大食いファイターは強い！

大食いファイターを舐めるとこんな目にあるんだ！

「ぐふ」

サントナの鼻からイチゴのような物が飛び散った！！！！

イチゴのような物で、イチゴではない！

イチゴだったなら怖い！

虫は怖いんだ！

びびっちゃうよ！

「なるほど」

準は飛び散ったイチゴのような物をよく見た！

「どうしたって言うんだい・・・ああ！飛び散ったイチゴのような物が地図になっている！！！」

飛び散ったイチゴのような物がグルメマップになっている！

「偶然だな」

これは完全に偶然でサントナの技ではない！

超常現象で、霊のせい！

おじいさんの霊のせい！

グルメマップで見つけたカレーの店にやってきた二人！

グルメマップは古代から伝わる、グルメの店が記された地図だ！

普通の人は持っていない！

持っている人はグルメ！

欲しい人は、本屋へ行ってくれ！

よろしくたのむぜ！

「カレーシヨップ声優！ああ、カレーのおいしそうな匂いが漂ってくるぜ」

サントナはカレーの匂いをかいで、お腹が空いてしまった。卑しい！

匂いでお腹をすかせるなんてなんて卑しい子！

サントナはカレーシヨップ声優の外壁をペロペロと舐めた！

口の中においしい鰻の味が広がった！

鰻とカレーは見た目は似ているが全然違う！

骨の数とか、骨格が違うね！

間違える人が多いよ！

間違えたからって、恥ずかしがらなくてもいいよ！

誰にでも間違いはある！

嘘、間違えたらバカ！

二人は店のドアをガタガタと揺らした！

嫌がらせだ！

他人の店が壊れよつと何も思わない！

それが大食いファイター！

動じない、鉄の心だ！

「俺は準！大食いファイター準！大食い界に嵐を巻き起こす男だ！」

「俺はサントナ！お地蔵さんの生まれ変わりだ！」

二人を怒らせると怖いぜ！

優しくするとつけこむぜ！

人間的には最低だぜ！

「ちよつと！店のドアをガタガタ揺らすのはやめてください！」

店の人が怒って二人にカレーをかけた！

カレー屋さんは怒ると、カレーを掛けてくる！

怒り度によって、甘口、中辛、辛口になる！

今回は、辛口！

カレーが宙を舞う！

するとカレーの虹ができた！！！！

綺麗ですね！

世界遺産にも登録されている、カレーの虹！

「か・・・カレーが目・・・ぐぐうううう！」

準の目にカレーが入って、耳からシチューが出た！

カレーが入ったのに、シチュー！

人間の神秘！

いまだに、人間の体のことはわからないことが多い！

ほとんどわからない！

わかりたくもない！

「げえーどういう構造なんだ！」

サントナは驚いた！

まるでマジックじゃないですか！

全米が即死するようなマジック！

「カレーを食べにきたぜ！」

準はカレーシヨップのドアに優しくキスをした！

厳しさと優しさを兼ね合わせるのが大食いファイター準！

厳しいからこそ、人に優しくなれる！

第三話 勇者と悪魔

「お・・・お客さんでしたか！じゃあどうぞ」

お客には手出しできない！

店の店員はげんきん奴らだぜ！

お客だと思えば、へこへこするんだ！

首を上げたり下げたりするんだよ！

余りやりすぎると首に悪いぜ！

だって、首は大事だから！

体の中でも大事な方ですね！

これは本当ですよ、ジョークじゃないですよ！

金庫に首をしまっておけ！

そんなに大事なら！

その金庫を金庫にしまえ！

そしてどこに仕舞いこんだか忘れる！

その忘れたことも忘れてしまえ！

「ふふふふ、俺は悪魔だ！」

サントナは悪魔だった！

下腹部が悪魔だったのだ！

悪魔は倒すのが勇者の定め！

勇者が現れた！

「やあ、オレは勇者だ！悪魔は許さない！包丁で刺したり切ったりするぜ！」

勇者はサントナの下腹部の悪魔を刺したり切ったりした！

「ぐわー」

悪魔は死んだ！

ついに死んだのだ！

サントナの下腹部の悪魔は死んだ！

「すごい悪魔だったぜ！勇者も危なかったぜ！でも、これで大丈夫

！だけど、俺も・・・さすがに力を使い果たしたみたいだ。だって
そうたる？悪魔を倒したんだぜ？だぜ？」

勇者は力を使い果たした！

勇者はサントナの下腹部の悪魔を抱いて静かに目を閉じた！

ありがとう勇者！

そして下腹部と悪魔！

「勇者・・・」

準は勇者と下腹部と悪魔を道にそっと叩きつけた！

ストレス解消！

二人はまず、カレーショップの椅子をほうり投げた！

大食いの前の運動にちょうどいい！

大食いファイターはパワーがあるので、椅子も軽々と投げる！

普通の人椅子を投げたりできない！

普通の人椅子を投げたりしたらあばら骨が飛び出る！

サントナの投げた椅子はすぐに床に転がった！

パワーがないからだ！

乳幼児と変わらないパワー！

それに比べて、準の投げた椅子はすごい速度で飛んでいった！

飛んでいった椅子は、店の中を跳ね返り、サントナにぶつかった！

「げほ」

椅子にぶつかったサントナは崩れ落ちた！

「この店に椅子なんていらない！」

椅子を使うなんて百年早い！

それは言い過ぎたね！

ごめん！

こんな店は地べたに座ればいいんだ！

汚い地べたに座れ！

むしろ、一回汚してから座れ！

座るな！

勝手なことをするな！

立つてろ！

もう、天井から吊るされる！

このさい天井を吊るせ！

「椅子を投げないでください！」

「そういうシステムの店か！」

店によっては椅子を投げると怒られることがあります！

店のルールは守ろう！

約束だぜ！

約束を守らない奴はクズ！

でも、ルールに縛られちゃダメだ！

小さくまとまると大物にはなれない！

だからルールを守るな！

これは約束だ！

「水だ！水をだせ！俺は喉が渴いてるんだ！」

崩れ落ちていた、サンタナが偉そうに言った！

偉くない奴ほど偉そうにする！

本人も自分が偉くないことはわかっているんだ、でも威張りたいんだ！

だ！

その心の葛藤がある！

嘘、ない！

ただ、威張りたいただけでした！

あと、サンタナは喉がカラカラなんだ！

いつも喉にめがけて風を送っているから！

風速、100メガシヨック！

「は・・・はい」

店の人が水を持ってきた！

第四話 肉の次に水がうまい

サンタナは店の人から水を奪うとガブガブと飲んだ！

まるで排水溝のように水を飲み込む！

水道の水は味がうまい！

知り合いの、味のわからない美食家も言っていた！

肉の次に水がうまいと言っていた！

その次が消しゴムだってんだから、味はわからないだろうね！

若いころは肉ばかり食べていても満足できるが、歳を重ねていけば

水のうまさに気がつく！

気がつかない奴は、舌がダルンダルンになっている！

その水の中でも水道水は特筆に価するうまさだね！

たぶんおいしい成分が入ってるからだ！

なんだかわからないがとにかく未知の成分で、水がうまくなる！

魔法の成分！

ナサもそのおいしい成分を研究して、ロケットに利用しようとしている！

ロケットはおいしくなるに違いない！

恐らく体にもいい！

絶対いいにきまつてる！

亜空間から元気を集めて、水に注入する未知の成分！

ヨウ素液に反応するぜ！

おいしくて体にいい！

夢のタツグが結成された！

勝利への橋が架かったのだ！

水道の水は他にもいろんな薬が入っているので、興奮するぜ！

普段、人間がとってはいけなような成分をどんどん補給することによって人間を超えていく！

人間を捨てる！

人を超えるってことはそう言うことだ！

意思や自我を超えたところに自分を追いやれば、人は何かを越えることができる！

今、君が見てる世界って他の人が見たる世界と同じと言えるのかい？

水道水を飲むんだ！

あと、筋肉もつくよ。

アメリカのエリートアスリートは日本の水道水ばかり飲んでる！

アメリカのエリートアスリートは日本の水道を浴び続ける！

イエーイ！

イエス！

日本の水道水を飲まない日はない！

日本のアスリートは水道水を飲まない！

だからダメなんだよ！

水道水をうまく活用しなきゃ！

蛇口を頭に移植しなきゃ！

「やあ、俺は大食いファイター準だ！大食いをさせろ！どう見てもそつたる？」

大食いファイターは大食いメニューを要求するぜ！

どう見ても要求するね！

「は・・・はい！」

店員は大食いファイター準の迫力で、ビビッチャッてんの！

無理もない！

大食いファイターの迫力は、つまらない大作CG映画並みだ！

「待て！ただ大食いするだけじゃつまらないだろ？俺と大食い勝負をしようぜ！」

店の天井から男が降りてきた！

この男は、この店の天井に張り付いて勝手に生活している！

そんな住人！

人がいなくなると、天井から降りてきて食べ物や金を盗むんだ！好きな食べ物はいいたけ！

しいたけを焼いて、レモンをかけておじいさんにこすり付けて食べる！

通！

好きなお札は一万円！

大胆に現金を盗んでいく力強い精神力が魅力だぜ！

「お前は何者だ！」

知らない人にあつたら名前を聞こうぜ！

その前に自分の名前を言おう！

世間の常識だぜ！

準は常識があるが今回は忘れてただけだ！

いくら常識が服を着ていると言われる準でも、すっかりミスはある！

小さなミスを突付くのはよくないぜ！

時には許す優しさを見せるのも大事！

「俺もお前と同じ大食いファイターだ！名前はジョーだ」

まさかの大食いファイタージョー！！！！

「ジョー！？お前はキムチオレだろ！名前を間違えるな！俺の考え

た名前を使え！一生涯使え！」

準が今考えた名前を使えと要求した！

「げー！？キムチオレなんて嫌だ！」

急に言われたからって、せっかく考えた名前を拒むなんて虫が良すぎる！

「帰れ！帰ってくれ！」

準はジョーに唾を吐きかけた！

抗議する時は唾を吐きかけろ！

手は出すな！

手を出したら、裁判で八つ裂きにされるからな！

「汚い！」

ジョーは準の唾を払った！

「もったいね。トロリと柔らかい、なんともたまらない感触」

サントナはその払った唾をいただいた！

「名前は変えないジョーだ！大食い勝負をしろ！」

勝負ときちや黙ってられない！

「いいだろう！張り合いのない人生よりも、色々挑戦していく人生の方が輝いてる！勝負してやらあ」

準の戦う闘争本能の戦いに火がついた！

火がついたら止まらないぜ！

情熱がほとばしり、暗い人生を明るく照らしだす！

行こうぜ、地獄へ！

第五話 出してはいけない物をだした！

「大食いファイター同士の戦いが見れるなんて、こりゃ楽しみだね」
サントナは楽しみだ！

人の家のゴミ箱をあさる時のように楽しみだ！
いいゴミはもらい、いらないゴミは知らない人の家に投げ込む！
そんなスタイルを確立した！

「ルールは簡単だ！どちらが沢山大食いメニューを食べられるかだ」
古代から間違つて伝わる、大食いのルールだ！
社会の教科書にも巻頭グラビアで載っていることもある！

ルールは厳しく殴ったり蹴ったりしてはいけない！
大食いファイトは喧嘩とは違うんだからね！

野蛮なことはやめてよね！

もし、ルールを破ったら泣いちゃうからね！

お漏らししちゃうからね！

「うちの大吃いメニューは、当然カレーです！」

カレーシヨップ声優の大食いメニューはカレーライス！

ライスが35キロにルールが5キロだ！

ルールとご飯の絶妙のバランス！

このバランスにたどり着くまで、試行錯誤すること何分間かかった
ことかわからない！

カレーかどうかもわからない！

こいつが店員なのかもわからない！

「なんだこのカレーは！まるで山脈じゃないか！大丈夫なのか準」
サントナはカレーに手をつ込んでグチャグチャにした！

「うるせー！」

準はサントナをぶちのめした！

悪いことを何もしていないのにね！

恐ろしいまでの攻撃性！

これでもない大食いファイターは務まらない！

それが大食いファイター！

「ふふふ、この程度のなら何杯だって食べられるぜ！絶対に！」

ジョーはニヤリ！

そして少しカレーを食べた！

フライング！

「うるせー」

準はジョーをぶちのめした！

ジョーの顔が気に入らない！

顔が気に入らない時はぶちのめせ！

でも、やりすぎには注意するんだ！

そつとやるんだ！

左手に気づかれないように、右手でな！

「では大食い勝負！スタート！」

ジョーは勢いよくスプーンでカレーを食べ始めた！

なんとジョーは最初から、スプーンをうまく使える！

さすが大食いファイター！

普通の人ならスプーンをうまく使えずに、全治1カ月の重傷を負う！

ジョーの食べるのは、すごい速さ！

まるで口にカレーが吸い込まれていくようだ！

バキュームだ！

「すげえ！これが大食いファイター！」

興奮してサントナは出してはいけない物をだした！

卑猥で卑劣な行為だ！

絶対に許されない！

それをよそに準はカレーを見ていた！

カレーを見極める！

心の目でカレーを丸裸にするんだぜ！

ひゃあ、丸裸！

エッチ！

「どうしたんだ、準！カレーを見ていてもカレーは減らないぞ！食べるんだ！おまえにはできるはずだ！食べる！」

「うるさい！大食いってのはただ食べればいいってもんじゃないんだ！作戦を練らなければいけないんだ！」

大食いファイターは計画的に食べる！

素人は無計画に食べる！

それではダメです！

即死します！

みんなには生きてほしい！

「ふふふ、貴様が考えているうちにも俺のカレーは減っていくぞ」

ジョーはどんどん食べる！

そして戻す！

また食べる！

いい、リズムだ！

「やばいぞ、ジョーの食べるスピードが上がっているぞ！」

ジョーの食べるスピードが50キロくらいに上がった！

お金に例えると、二十円くらいの価値がある！

「作戦が決まったぜ！とにかく食べる」

準の作戦はとにかく食べる！

この作戦はとにかく食べる作戦だぜ！

すごく巧妙な作戦！

一見稚拙に見える作戦だが、その実そこには戦いの本質に迫る意味が隠されているのだ！

「作戦はすごいが、ジョーはだいぶ食べているぜ！ここから追いつけるのか！」

「スプーン一本なら追いつけない・・・でもこれならどうだ！」

準はスプーンを二本持った！

スプーン二刀流だ！

宮本武蔵みたいだ！

顔がそっくりだ！

アジの開きに顔がそっくりだ！

右のスプーンで米をすくい、左のスプーンでそれを皿に戻す！！！！

「流れるような動き！これは油断できないぜ」

ジョーはさらに食べるスピードを上げた！

第六話 生活保護をもらってハッピー！

ジョーはさらに食べるスピードを上げた！

「それでもまだジョーには遠く及ばないぜ！どうするんだ！」
どうしたらいいんだ！

これからの人生！

生活保護をもらうしかないのか！

生活保護をもらってハッピー！

「二本でだめなら六本だ！」

準は四本のスプーンを口に銜えた！！！！

口にスプーンを銜えたので食べることができない！

コロンブスの卵を割りつくす発想の転換！

道に正しいとか間違ってるなんてないんだ、どんな道を通ろうがたどり着くところが同じならいいのだ！

進め勝利への道を！

「なるほどそれなら、食べるスピードが六倍だ！」

瞬時に計算した！

オームの法則がここにきて炸裂！

法則オブオームのアレが計算を脳裏に刻み込む！

大食いファイター準の必殺技、スプーンを六本持つて食べるが炸裂！！！！

この必殺技は万引きGメンが万引き犯を、強烈な焼き鏝で拷問する場面からヒントを得た技で完全オリジナルだぜ！

著作権は準が持っている！

もし、マネしたら必ず訴える！

何度でも訴える！

著作権侵害は許さない姿勢をしめすぞ！

しかし、こんな食べ方をする人間がいただろうか？
いない！

いや、いる！

いたけど、死んだ！

車にはねられた・・・それから80年くらいたって死んだ！
でもいい人生でしたよ！

殴られたり蹴られたりしたいいい人生！

虐めにもあいました！

いいことなんて何もなかった！

毎日、水を飲まされた！

意味がわかるかい？

明日も明後日もずっと水を飲まされる人生！

「スプーンが六本でスピードアップしたわけか」

さすがの大食いファイタージョーも驚いた、髪の毛が抜けた！

あの大事な髪の毛が！

ジョーと髪の毛は切っても切れないそんな関係！

誰かを傷つけても髪の毛は失いたくない！

いつまでも待つてる、髪の毛が生えることを待つてる！

明日に向かって前を向いて歩いていく！

ストレスは髪に深刻なダメージを与えてしまう！

怖いですね！

もしストレス感じたらすぐに、わめき散らせ！

ストレスが溜まる前に解消するんだ！

「準！それでもジョーにはまだ追いつけないぜ」

サンタナは大好きなアニメのキャラクターとの冒険を妄想して小説
を書いた！

もちろん冒険の途中で恋もするぜ！

日本の小説の賞を大体ただくポテンシャルを秘めている！

愛と自己の存在を追求する非常に深いテーマを、いい加減に嘘の情

報を中心にまとめて作った小説だぜ！

読んだ人の全米は泣いちゃうね！

そして爆発するね！

「一人がダメなら二人で勝負だ！サンタナ！食べるのを手伝うんだ！」

一人でダメなら二人で食べる！

大食い勝負では基本的戦略だ！

アメリカの方の人も口々に言っていた！

あとおばさんみたいな人も言っていた！

「でも！いいのか？」

「いい！」

勝負と言っても厳密にルールを決めたわけではないのでいい！

ルールの隅を突くのが賢い生き方！

怒られるまでは辞めない！

怒られてもしばらくは辞めない！

グレーゾーンを利用する！

サンタナはカレーを食べる！

サンタナはもともとが卑しいので、すごく食べる！

卑しいと書いてサンタナと読め！

卑しいの代名詞がサンタナだ！

汚らしい唾を飛び散らせながら食べる！

その汚らしい唾は悪臭を放つ！！！！

「臭い！」

ジョーはスプーンで鼻を押さえた！

鉄壁のガード！！！！

このガード方は戦国時代、刀で切られそうになつたら鼻を塞いだことから始まった防御方法である！

かつて最強の武士と言われたサムライ、飯島さんの得意技で国語の教科書などで紹介されたこともあるので知っている人も多いことだらう！

近年でもこの技は改良され、いろいろなスポーツで応用されている！大食いファイトもその例にもれず、非常によく見るガードスタイルだ！

非常に強固なガードスタイルだが、意味はない！
その為か、否定派も多い！

第七話 脳を高压空気で吹き飛ばさせてもらっぜ

「よし！スプーンが使えない今がチャンスだ！」

大食いファイター準の必殺技！

ヘヴン大食いデイストラクション！！！！

でた！

この技を知らない人はいないと言われるほど知名度のある大技！

もし知らない人がいたら、情報弱者丸出し！

恥ずかしいので、絶対に知っていると答えてください！

そうしないと、呪われます！

この技は流動する甘口・中辛・辛口の3種のマントル遷移層を炭素の重イオンビームを照射する技である！！！！

説明を聞くだけでゾクゾクするだろ？

おしっこ漏れちゃうだろ？

漏らせ！

これを使うとお腹が空いて、食欲が出てくる！！！！

つまり大食いできるのだ！

「く・・・くそおおお」

ジヨーは泣いてしまった！

あとお漏らししちゃったの！

大食いファイター準と、臭い男サントナの友情の力が悪い大食いファイタージヨーの汚らしい心をぶち壊したんだ！

すごいだろ！

協力すればどんな強敵でも倒せるんだ！

友達を大事にしようぜ！

「まさか・・・このオレがやられるなんて・・・」

ジヨーはショックを受けているようだ！

バーカ！

弱い！

「お前のように弱い奴は見たことが無い！約束どおり脳を高圧空気で吹き飛ばさせてもらうぜ」

約束は守らなければいけない！

これは世の中の掟だぜ！

「実は・・・俺には脳がないんだ・・・」

ジョーには脳がない！

脳がないと人間は困ることが三つはあると言われていたが嘘！

「脳がないだなんてまったくジョークだぜ」

サンタナは腹の底から響き渡るような声を出し約40分間にわたってまくし立てた！！

弱った相手には徹底的にやるのがサンタナ！

「どうということなんだジョー！脳がないだなんて・・・そう簡単には信じられないぜ」

「これを見てくれ」

ジョーは苦悶の表情を浮かべながらテーブルマジックを披露する！！

その手際のいいこと！

まるでマジシャン！

「すごい！プロみたいですよ！いや、プロじゃないプルだ！プルなの！」

「どうだこれで信じてもらえたか？俺には脳がないんだ！正確に言えば盗られた」

「脳を・・・盗られた？まったくジョークだぜ」

サンタナは腹の底から響き渡るような声を出し約40分間にわたってまくし立てた！！

大食いファイトに勝った二人は、ジョーから奪える物はすべて奪った！

大食いファイトで負けるとすべてを失う！

厳しい世界！

安易な気持ちで大食いの世界に入ればすぐに木っ端微塵にされてし

まうのだ!!!

「ジョーお前これからどうするんだ」

「オレか・・・大食いファイトで負けたからな。田舎に帰って道行く人や、電柱で作業中の人、そして小さな子供でもいじめるよ」

ジョーは性格が腐っている！

「そうか・・・がんばれよ！そして地獄に落ちろ」

罵ってやったぜ！

鼻歌交じりによだれを垂らし、互いに死力を尽くして戦った者同士友情が芽生える！

「田舎に帰るのに手ぶらつてわけにもいかないだろ」

サントナは石を外から拾ってくると、ジョーにぶつけた！

いえーい！

「お前にはこれがお似合いだぜ」

これが戦いに勝ったものの、負けたものの現実だ！

「ありがとう！この石・・・大事にするぜ！この石のお礼にいいことを教えてやるぜ、この先の蕎麦屋で蕎麦の大食いをやってるぜ」

ジョーは疾風のように走り、猫のような敏捷さで石を拾った！

「蕎麦の大食い？そんなことがなんでお礼なんだ！」

準は木の根の周辺を浅く掘り、そこに肥料をまきながらサントナをひっぱらいた！！！！

ストレス解消！

ストレスは体と心を蝕むので、早めに解消しないといけない！

常識の枠に縛られない自由な発想でのストレス解消！

そしてサツマイモの苗などにサントナを混ぜ、こねて出来上がったパン生地のようなサントナ！

こんなサントナ今まで見たことない！

第八話 痩せれば死んでもいい、ダイエット

二人は、尻もちをついて転倒しながら大食いのできる蕎麦屋にやってきた。

若者の背中や腰回りは狙われている！

悪い木こりが斧で滅多打ちにしようとしているのだ！

悪い木こりは斧が武器で、パワーがあるファイターだ！

斧があれば、家だって解体できる！

だから、人なんてイチコロだ！

これはニユースで見たから本当だから信じて！

真実の物語！

「うーん、おいしそうな蕎麦の匂いがプンプンするぜ！」

上半身と顔を左右に振りながら準は匂いを吸い込んだ！！

小刻みに顔を振ることによって、敵の攻撃の的を絞らせないと言う意図が見える！

半径二キロの空気はすべて準の鼻の中に吸い込まれていく！

天使と自らの力で人生に奇跡を起こすのが大食いファイターだぜ！！

準は大食いファイターなので、鼻が普通の人間の何倍もいいんですよ！

鼻の構造が違う！

手術で鼻を高くした！

顔もかっこいい！

手術した！

あと、準は毎日肌の手入れの為に、顔を秘伝のしょうゆダレにつけてじっくり煮込んでいる！

こうすると肌はスベスベです！

コローゲンは関係ない！

才能！

熟れた果実のような匂いたつ美しさで大胆セクシーそれが大食いフ

アイター準！

鼻がグレートにすごいので、カレーとラーメンなら簡単に嗅ぎ分けてしまう！！！！

普通はこんな高度な嗅ぎわけはできない！

普通の人があるこんな嗅ぎわけをすると、骨折する。

そして骨折したところを骨折してしまう！

「あの・・・オレ・・・こんなこと言うの恥ずかしいんだけど・・・蕎麦をたべたことないんだ」

サントナは蕎麦を食べたことがない！

蕎麦みたいな顔をしているくせに！

完全にソバ！

ソバタナ！

「そうか・・・オレはお前が嫌いだ！」

準はサントナのことが嫌い！

これは出会った時から確かに感じる感情！

嫌いと言う気持ち大量にあふれ出している！

シリーズ最恐と言われる衝撃の事実！

今まで隠していた感情が蕎麦というキーワードで核爆発してしまったのだ！

「そんな。嘘だろ！」

サントナシヨック！

「そんなことはどうでもいい！黙れ！息が臭いんだよ！その表情は意外なほど汚物！蕎麦を食べようぜ」

優しいさの意味を知る準は、嫌いなサントナにも優しい！

慈愛の心！

「そ・・・そうだな！蕎麦を食べよう」

「いや、イワシやサンマやタラを大量に食べようぜ」

準は蕎麦は食べない！

ダイエットをしているからだ！

ダイエットの極意は食べないこと！

絶対に食べてはいけない！

食べなければ痩せるんだ！

健康に痩せるなんてナンセンス！

命を削って体重を削れ！

痩せれば死んでもいい！

そんなダイエット！

二人は蕎麦屋の扉を壊して中に入ってしまった！！！！

扉は開けたり閉めたりするのがめんどうだから壊す！

準は扉の替わりにドラム缶を置いた！

「ドラム缶だ！」

ドラム缶とはドラムの缶だ！

詳しくはお母さんに聞いてくれ！

お母さんはいろいろなことを知ってるからね！

「ドラム缶？なんでこんな物を置くんのだ？」

「邪魔だからそこに捨てたんだぜ！」

サントナはドラム缶の中を覗き込む！

そこには約15センチの非常に強い台風が入っていた！

こんなところに台風が！

以外ですね！

でもドラム缶の中なら安心ですね！

第九話 内臓は人間にとってかけがえのない友達！

「いらつしゃい！蕎麦屋です」

蕎麦屋！！！！

名前がきにらねえ！

何が蕎麦屋だ！

「自分で蕎麦屋なんて・・・逆に怪しい！」

自分で言う奴は大体あやしい！

犯罪者はあやしい！

あやしいのは犯罪者！

即死してもらうに限る！

「即死してくれないかな？」

頼んでみた！

意外と頼むと快く即死してくれる人はいる！

気持ち伝わる！

今はすごくいい世の中なので、頼めば大体OK！

怒られたら謝ればいい！

「即死はできませんよ。蕎麦屋ですから。私の仕事は即死すること

ではなく蕎麦をすることですから」

蕎麦屋は大体こう言う屁理屈をこねる、蕎麦屋だけに！

蕎麦屋なだけにね！

よくわからなかった人は、無視する！

「俺はサントナだ！怖いかな？」

サントナの顔は工事用のポールみたいで怖い！

霊能者が見たら、悪霊と間違えて火炎瓶で焼かれてしまうレベル！

実際悪霊には火炎瓶が大変有効である！

ある高名な霊能者は、霊を見るたびに火炎瓶を投げるために火炎瓶

がいくらあっても足りないと言う！

みんなも霊が見えたら、火炎瓶を投げつける！

怒りの炎で霊を焼き尽くせ！

この世への未練も断ち切る火炎瓶の炎！

「怖くはないですね」

蕎麦屋の肝っ玉はすごく大きい！

東京ドーム20個分だとか言われている！

でも臭い！

鼻がへし折れる！

何度でもだ！

「メニューだ！メニューを見せろ！急げ！爆発するぞ！」

準は気が短い！

そして爆発する！

気持ちと、肉体がね！

そして準の内臓は木っ端微塵だぜ！

内臓は人間にとってかけがえのない友達！

内臓とは仲良くしようぜ！

体は大事だぜ！

健康は何よりの幸せだ！

これは約束だぜ！

「どうぞ」

蕎麦屋の店員がメニューを持ってきたら素早く取り上げる！！！！

マッハ3！

早すぎる！

神業！

神に愛されているからできる技だ！

すごいだろ？

普通の人にはできない、準は日ごろから手首をゲームをしたりして

鍛えてる！

ゲームと言ってもただ石を投げつけるゲーム！

興奮するだろ？

はあはあ！

あと、神に愛されてる！

「よこせ！変わりにこれをやろう」

準は大量の塩を投げつけた！

塩はお腹が空いた時に食べるといんだ！

血圧がドンドン上がって力がみなぎってくるんだぜ！

塩にはいろんな成分が入っていて、体に力を与えてくれる！

塩だ！

塩は命の粉！

塩を舐め続けていれば命も延びるぜ！

でも、採りすぎには注意してください！

注意しないと未来がなくなるぜ！

ビビッテ、おもしろしちやだめだぜ！

「メニューを読ませてもらおうかな」

準は文字を読んだ！

準は日本語ならば大体読めてしまう！

なぜなら国語を勉強したからだ！

普通の人は国語なんてバカらしくて勉強しない！

教科のなかで一番劣っているのが国語なので勉強する人はすくない。

国語なんてまじめに勉強していたら、いじめられる！

棒でめったうちにあう！

そんな国語でも差別せずに勉強してしまう大食いファイター準！

第十話 大食いファイター準の戦いは終わらない！

「メニューを読んでみたがさっぱり意味がわからない」

大食いファイター準はメニューを見ても意味がわからない！
意味をわかるうという気持ちがない！

「このメニューの中から選んで注文するんじゃないのかな？」

サントナはピンときた！

わかってみると簡単なカラクリ！

サントナはすごく勘がいい！

だからなかなか死なない！

勘がわるかったらすぐにでも変死している！

「オレはお前の頭を食いちぎってやりたい」

準の歯は虫歯も少なく健康なので、すごいパワーだ！

まるでチェンソーみたいな歯！

うiiiiiiiiん！！！！！！！！！！

「や・・・やめてくれよ！頭はオレの中枢部分だ！これを食べられ
てしまったら、俺のコントロールができなくなってしまうんだ」

これはサントナの最高レベルの秘密だぜ！

インターネットにも載ってないんだ！

でも漢字字典には載っているから、よく読んでおけよ！

「メニューがたくさんあって迷うな」

準は迷った！

あまりにもたくさん選択肢があると、決めかねてしまう！

無数の星の中から自分の住んでいる星を見つけることが困難なよう
に、蕎麦屋のメニューから食べたい一品を見つけることは困難なこ
となのだ！！！！

「おいおい、こんなたくさんさんのメニューの中から俺の食べたい物を
選べってのか？まるでジョークだ」

無茶を言われると準は困ってしまう！

「俺は大食いファイター準だ！この店のオススメはなんだい？」

注文に困った時は店員に聞け！

これはどんなお店でも使える技だ！

活用してくれ！

たのむぜ！

でもあまりしつこく聞くと嫌われることもあるから、モラルはもってくれよな！

約束だぜ！

暴力もほどほどにしろ！

「うちのオススメはタヌキ蕎麦ですよ。タヌキ蕎麦はどうですか？」蕎麦屋の店員が言うことはだいたい嘘！

信じると核爆発して死ぬことある！

生きること、もちろんあるぜ！

生命の神秘ですな！

人間にはまだまだ秘められた力が昼寝している！

「よし！タヌキ蕎麦を頼もう」

準は人を信じる心がある！

人を信じられなくなったら終わりだね！

即死だね！

今の日本人にかけている部分はここだ！

人を信じて裏切られてもいいじゃないか！

いやダメだ！

絶対人を信じるな！

信じれば騙されるぞ！

みんながおまえを騙そうと狙っているんだ！

騙されるくらいなら人を騙せ！

多少の嘘、大げさ、紛らわしさは認められ評価される！

全世界が恐怖するまで騙し続ける！

いいか人生はギャンブルだ！

「じゃあ俺もタヌキ蕎麦をもらおうか」

突然天井から声がした！

「何者だ！」

準はたまたま持っていた、鋼の剣を天井に投げた！！！！！！

鋼の剣は持っていたほうがいい！

痴漢が出た時とか、役にたつから！

大食いファイターの力はすごいから、鋼の剣は天井に突き刺さった！

大食いファイターはステロイドを毎日2リットル一気飲みする！

すると地球からパワーを吸収して、強くなる！

「ぐふ」

天井にはサントナがいた！

サントナは天井に張り付くのが好きなんだ！

そういう妖怪！

天井の恨みが生み出したのがサントナ！

「サントナ！どうしてそんなところに」

サントナは剣に貫かれてしまった！！！！

でも、早く病院に連れて行けば助かるよ！

早期発見、早期治療が最強だ！

最強コンボだ！

これだけやってれば、どんな病気も怪我もイチコロ！

「いや、今はサントナのことより蕎麦だ！タヌキ蕎麦を早くくれ！」

準はお腹が空いてしまった！

お腹がすくと力がでない！

人間はそういうメカニズム！

「一人で大食いはできないだろ？」

「誰だ？」

「俺は大食いファイターノボルだ！」

突然やってきた大食いファイターノボル！！！！

服は着ている！

ノボルは服をちゃんと着るタイプ！

着ないタイプのノボルは警察に捕まった！

「大食いファイターノボル？テメー本物か？嘘じゃないのか？」
本物のノボルなのか？

「ああ、本物だ！」

本物だった！

「すまんが俺もタヌキ蕎麦をくれ」

ノボルは準と同じにタヌキ蕎麦を頼んだ！

マネだ！

「はい、タヌキ蕎麦おまち」

二人の前にタヌキ蕎麦が並んだ！

タヌキとタヌキの競演！

何年に一度あるかないかの競演！

「ルールは簡単だ。どっちが多くタヌキ蕎麦を食べられるかだ」

簡単なルール！

相手を殺してはいけない！

「いいだろう！ぶち殺してやるぜ」

準は懷からナイフを取り出してノボルに襲い掛かった！

先手必勝だぜ！

ノボルはやられてしまった！

大食いファイトの世界は過酷だ！

少しでも気を抜けばこうなるんだ！

戦いとは時に非情！

ただ、相手を破壊する！

感情を押し殺し、相手を倒すことだけを考える！

余分なことは考えるな！

「さあ、蕎麦でも食べるかな」

的を倒したので、ゆっくり食事を取る！

大食いは体に悪い！

「どこを見てるんだ？」

「の・・・ノボル？」

ノボルは元気だった！

準がノボルだと思って襲ったのはサントナだったのだ！
人違い！

こういうことはよくあるですよ！

「サントナ！？ノボル！おまえがやったのか！」

「俺じゃない、やったのはオマエだ」

「なんだって？そうか」

サントナをやったのは準だった！

それなら別にいい！

そんなことより今は大食い勝負だ！

勝負はノボルが勝った！

ノボルはヒロシになりタツオになったのだ！

大食いの世界は深い！

ふすまの段差のように深い世界なのだ！

「その料理に適した、大食いができるようになれなければ大食いの世界を生きていくことはできない」

「うるせー」

準はタツオを殴りつけた！

タツオはやられた！

逆転満塁ホームランだぜ！

正義は勝つ！

「しかし今回は危なかった！この拳に感謝しないとな」

準の戦いは終わらない！

大食いでファイトして、何かするまで大食いファイター準の戦いは
終わらない！

第十一話 暴力と大食い

暴力で大食い勝負制したことにより、大食いファイター準は悩んでいた！

なぜかって？

大食いと暴力！

その二つの価値についてだ！

大食いよりも、暴力の方が上なのか？

食べること！

人を殴ること！

どちらが上か！

大食いファイターとしての、根幹に関わる部分！

ここが揺らぐことがあるとすれば、もう大食いファイターではない！

大食いより、暴力に価値を見出すことがあればそれは大食いファイターではなく、ただのファイター！

もしくはただの暴れる人！

大食いファイター準は、暴力よりも大食いを選んだ！

なぜかって？

その暴力すら食べるのが大食いだからだ！

殴りかかってきたら、かぶりつけばいい！

食べちゃえばいいんだ！

すべて食い尽くせばいい！

食べることも暴力の一部だが、暴力も食べることの一部！

つまりどちらでもいい！

人が食べている物も奪って食べちゃえ！

それが大食いファイターじゃないか！

細かいことより、食べる！

準は元気になった！

「俺、また大食いするよ！だから、食べ物だせ！」

コンビニに立ち寄り、食べ物を要求した！

早くしないと、どうなっても知らんぞ！

大食いファイターは気が荒い！

「準！お金を払わないと、コンビニで食べ物は手に入らないぜ！」

サンタナは日本のシステムをよく熟知している！

うっかり金を払わずにコンビニの食べ物を食べてはいけない！

南町奉行所の岡引に捕まる！

捕まると、拷問されて大岡越前にいいように裁かれる！

「くそ！金！金がほしい！俺は、金がほしい」

金がほしい！

誰だってそうだよね！

金があれば嫌なアイツも顎で使える！

お金の力はすごい！

「そうだ、賞金の懸かった大食い大会があるんじゃないかな？」

サンタナ情報！

サンタナの情報収集能力は聞きかじり！

「ほう、それに出よう！すぐに調べよう」

コンビニに陳列されている本を手に取り読み込む！

漫画はやっぱりおもしろいよな！

心がストレスから開放してくれる！

でも、大食いのことは書いてないので投げ捨てる！

紛らわしい！

ちゃんとした情報を載せてくれ！

頼むよ！

「準！あつたぜ！」

週刊大食いマガジン、大食い情報だけを載せた本だ！

くだらない記事で埋め尽くされていて、普通の人は読まない！

編集が漢字を使うのが苦手なので誤字だらけ！

段落も所かまわず変えるので読むものに、高い読解力を要求する！

そんな雑誌！

第十二話 やさしい社会人が発見された。保存状態は極めて良好

週刊大食いマガジンを読んだ！

読みこんだ、雑誌の真ん中のところがグシャグシャ二なるほどに！
読むって言うのはここまでして始めて言う！

チラチラ字を見たくらいで、文字が伝えようとしている意味を知ることではない！

嘘、できる！

頭がいい人はできる！

「おいおい、この近くで賞金がでる大食いやってるぜ！」

サントナはすぐに情報を信じるバカ！

確認もしないで、雑誌に載っているというだけで真の情報だと思っ
てしまう！

膨大な情報を精査すると言う行為を怠れば、情報は人を裏切ってい
くのだ！

「何々？あ、本当だ！早速行こうぜ！」

信じた！

雑誌に載っているってことは大体あっている！

その記事を書いている人の思想なんて、無視しろ！

調べるのなんて面倒だから、鵜呑みしろ！

マスメディアにいいようにやられる！

そして、二人は賞金が出る大食いイベントにやってきた！

イベントをやっていたのはラーメン屋さん、その名もキャメロンラ
ーメン！

ラーメン10kgを一番早く食べた人が10万円もらえる！

食べられなかった人は20万払う！

一番以外は金をとられてしまう！

難しいシステム！

よくルールを理解せずに参加すればとんでもないことになる！

すでに、店の前には多くの人ばかり！
でも飯を食べて、お金をいただける！

こんなわかりやすい企画に飛びつかない、人間などいない！
キャメロンラーメンの罠にハマった人々！

そこに今、売り出し中の大食いファイターが現れた！

大食い界の生後28年のオスの赤ちゃんゴリラこと、「やさしい社会人」だ！

やさしい社会人は、最近大食い界にデビューし、めきめき頭角を現した！

ゴリラのように歩き回りながら大食いするスタイル！

あと、ゴリラのように自分の糞を投げつけてくるスタイル！

このスタイルの二本柱を使い分けることで、若者からの支持が厚い！
しかし、古くからの大食いファンは歩き回りながら食事するなんて
とんでもないと、アレルギーを起こす人も少なくない！

さらに喉に痛みを覚える人もいる！

糞に関しては好意的にとらえる人が多いようだ！

むしろドンドンやってほしいと応援の声も！

「おい！やさしい社会人！」

大食いファイター準としては目立つ奴は許せない！

「明けまして、おめでとうございます！」

正月でもないのにこの挨拶！

礼儀正しい！

「俺は、大食いファイター準！今日は俺とお前の一騎打ちになりそうだな」

準はやさしい社会人の腹に蹴りをいれた！

これは挨拶だ！

そして組み付き腰をコントロールし、後方に倒すようにテイクダウン！

大食いファイターの基本！

やさしい社会人もガードワーク！

準はハーフから潜ると、やさしい社会人にエルボーとパウンドを落としていく！

さらにヒザをわき腹に見舞う！

寝技に固執せず、立ち上がり際にも顔面を蹴り上げ！

パンチ、前蹴りを打ちこむ！

圧倒的な強さを見せつけた準！

大食いにはまるで関係ない！

「強い！それより、大食いのエントリーしようぜ」

サントナはそんなことより、大食い！

第十三話 小麦粉と水

ラーメンの大食いは意外と難しい！

みんなは馬鹿だからわからないと思う！

なぜならば麺と汁はまったくの別の食べ物なのだ！

麺は小麦粉、汁は水！

成分が違う！

見た目の違う！

水は形を持たず、その時々にあわせ変わっていく！

小麦粉は吹けば飛んでいく！

つまり食べ方を変えていかなければいけない！

小麦粉と、水を同じように食べればいずれ死ぬ！

死んでしまう！

だからそこは食べ方を考えなければいけない！

キャメロンラーメンのラーメンは出汁をいろんな物からとったブレ

ンド出汁！

油が多く、味が濃い！

もはや味などわからない！

味の濃さでラーメンの味をごまかすタイプのラーメン！

味が濃ければいい！

味が濃ければ、喉が渇き大食いにはマイナスだ！

「スープの味が濃いな・・・」

大食いファイター準も困った！

こんな時はスープを黙って捨てるか、水で薄めるかだ！

食べ物捨てるのはよくない！

しかし水で薄めると、量が増えてしまう！

まさにジレンマ！

「困っているようだな」

やさしい社会人もスープの濃さに目をつけていた！

気持ち悪い目でスープを見ている！

きつとイヤラシイことを考えているんだわ！

警察に捕まって、八つ裂きにされちゃえばいいのに！

「確かにこの濃いスープは参ったぜ！」

「俺は、スープの味を薄めにあらかじめ注文しといたぜ！俺は薄味が好きなんでな」

恐ろしい！

やさしい社会人はスープの味を薄めで頼んでいた！

これで、味の濃さという悪魔を倒したことになる！

「ふふふ。俺のスープはサントナが飲むことになっているんだ！」

スープはサントナの係り！

一人でダメなら二人！

物量で圧倒するのが大食いファイター準の戦術！

「ルール違反だろ！二人で食べるなんて！」

ルールを持ち出してきた！

ルールを出されると弱い大食いファイター準！

ルールを守らないことでここまで勝ってきた大食いファイター準に

とって一番の敵は、ルールの壁！

「ルールのにはダメなのかもしれないが、今回に限って例外として

認める！」

認める！

ルールを守らないからって、いじめるなんてひどい！

「認めるか！ダメだ」

「言ってなかったが、俺は胃袋が二つあって一つは自分の体内！もう一つはサントナの体内！ダブル胃袋を持っているんだよ！これならルール違反じゃないだろ」

なんと胃袋が二つあった！

「俺の胃袋は、俺の物じゃなかったのか！？」

驚愕の事実にはサントナもびっくり！

すべて

ラーメンの大食い勝負はすごい戦いだったが、結局大食いファイター準が勝った！

途中の話は書きたくない！

みんなに知らせたくない！

でも勝った！

そして勝ったので賞金をもらった！

しかしその後二人は、大食いメニユーでもないのに勝手に大食いをしていくことになる！

つまり勝手に大食い勝負！

勝負にもなっていない！

勝手に沢山食べて、お金も払わず消えていく！

飲食業界では、食い逃げ準として恐れられた！

悪質な大食いに、大食い業界も困り果ててしまう！

準の胃袋は拡大を続ける！

今では、地球の三分の一までになった！

国際社会はこれを重く見て、準を宇宙へあげることを決める！

宇宙空間に上げられた準は、さらに大食いをしていく！

星まで食べるしまつ！

人の欲望はどこまで肥大していくのか！

地球を飲み込み、銀河を飲み込み宇宙を飲み込んでいく！

準の胃袋は宇宙となった！

拡大を続ける宇宙を飲み込み、準の胃袋も広がっていく！

準の胃袋の中では生命が誕生し、新たな世界が生まれた！

その生命進化を続けても、そこが準の胃袋の中だと気がつくことはない！

欲求の進む先にあるものは、すべて！

すべてを手に入れた先には何を欲するのか？

少し足りないくらいの世界が、ちょうどいいのかも知れない！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9302h/>

大食いファイター準

2011年10月10日10時16分発行